群馬詩人クラブ
会報
No. 290

編集／群馬詩人クラブ幹事会
代表／平野秀哉
発行／群馬詩人クラブ事務局
〒370-3102
高崎市箕郷町生原1730
龍昌寺
印刷　三協印刷
振替番号　00140-8-728969　狩野務

主な記事

●秋の詩祭報告・三浦雅士氏　講演
「今　詩は」より ……2
●群馬詩人クラブ
ホームページについて ……3
●追悼・在りし日の宮崎清さんを偲んで
田口三船……4
●近況寸感　城田博己……5
●第52回 群馬県文学賞受賞
「庭」　泉　麻里……6
●第22回現代詩作品展
高田芙美……7
●インフォメーション ……8
●受贈詩誌御礼／編集後記 ……8

総会報告

平野秀哉

平成26年度の総会が平成26年11月23日(日・祝)に前橋テルサの4階第3研修室で行われた。司会は群馬詩人クラブ幹事の志村喜代子が務め、議長に前代表幹事の井上英明さんが選ばれた。

代表幹事の平野秀哉の挨拶の中で、詩を書く人が高齢化しているが、全国津々浦々で詩を書くことをよろこびとしている人々がたくさんいる。詩を書き続けましょうと詩を書くことの大切さを述べた。

総会の出席者は41名、委任状42名で総会は無事成立。

第一号議案平成26年度事業報告が幹事の高田芙美よりなされ、第二号議案会計報告が幹事の狩野務よりあり、監査報告が監査の中澤・富沢両氏によって行われ無事終了した。

第三号議案平成27年度事業計画案と第四号議案平成27年度予算案が審議され質疑応答があり承認された。

『群馬年刊詩集 第三十七集』販売のご案内

群馬詩人クラブ刊行『群馬年刊詩集第三十七集』を次の要領で販売します。

内容
詩作品　六十七篇
追悼　窪田幸司
文・「―追悼―くぼたこうじさん　律儀な詩人」　富沢　智

表紙装画　長岡荘三

発行　〒370-3102 群馬県高崎市箕郷町生原一七三〇龍昌寺　平野秀哉方　群馬詩人クラブ幹事会

印刷　三協印刷

頒布　二〇〇〇円　会員は一〇〇〇円
いずれも郵送費は別料金となります。

※問い合わせおよび購入希望は幹事会へご連絡ください。
（☎〇二七－三七一－三四七二）

秋の詩祭報告

三浦雅士氏講演「今　詩は」より

第二十七回「秋の詩祭」が、平成二十六年度総会終了後開催されました。

今回は、文芸評論家で萩原朔太郎研究会会長の三浦雅士氏を迎え「今　詩は」と題して講演していただきました。

この報告は、長時間に及ぶ講演のうち演題でもある「今　詩は」という内容と思われる講演前段部分についてまとめたものとなっております。

掲載スペースのこともあり、かなりの部分を省略しておりますが、講演内容が十分反映したものとなるよう努めたところであります。

（三枝　治）

「今　詩は」ということは「詩の現在」ということですが、これは難しい問題です。

アインシュタインは晩年、カルナップという哲学者に、「現在」ということが分からなくなったと語っています。カルナップは論理実証主義の祖ですから「現在」は自明だと思っている。だが、アインシュタインはその「現在」が分からなくなったというわけです。

アインシュタインの相対性理論では、時空が一元化される方向にあるわけですから、これは当然といえば当然です。それから半世紀、いまでは時空は重力によって形成される、重力が強くなれば時空は歪むと考えられている。つまり、現代物理学の最先端の考え方では人間は文字通り幻想の時空に生きているということになるわけです。

これが詩にとって重要なのは「現在」という問題が言語の問題だからです。私は、世界は文字通り言語によってできていると考えていますが、少なくとも人間的世界が言語によってできていることは明らかです。過去も未来も現在も言語によってできている。しかし、いわゆる過去・現在・未来を支えている現在というのは、それとは違う次元に属しているのではないか。いわば超越論的な次元に属しているのではないか。アインシュタインの問いを文学の問題に移せばそうなる。

現在とは何かということは最晩年の漱石も書いています。漱石がこの問題を生涯考え続けたことはロンドン留学中の文学論からも明らかですが、でも、いわゆる修善寺吐血で九死に一生を得てからはいっそう根本的な問題になったようです。現在とは何かという問題は、考え始めると神経症になってしまうような問題です。それをいわば面白おかしく書いたのが「吾輩は猫である」ですが、名作である所以はそれが文学の根本的な問題だということを的確に感じさせるからです。

現在とはさまざまな次元で言語の問題ですから、現在への問いは言語の専門家である詩人につねに突きつけられています。現代文学においては、それはまず歴史的現在への問いとして現われてきました。漱石やアインシュタインが直面したのはいっそう根源的な問いですが、歴史的現在への問いもそこに含まれる。ところが歴史もまた言語の問題、文学の問題なのです。歴史的現在はしたがって二重に言語の問題なのだということになる。

この問いはしかし詩壇の現在においては忘れられています。詩壇がいまや支離滅裂であるのはそのせいです。しかしいまから三十年前まではそうではなかった。当時の詩壇にはある種の地図、詩の歴史的現在を考えさせる地図があった。その地図を提供したのは吉本隆明です。吉本の戦争責任論が重大だったのはそれが歴史的現在への問いだったからだ。戦争責任論の土俵を作ったのは鮎川信夫ですが、それを遂行したのは吉本でした。

吉本がそれを遂行できたのはマルクス主義の立場に立ったからです。マルクス主義は歴史的現在に対する解答として世界的に大きな影響力を持ちましたが、それはマルクス主義がキリスト教の最終的形態だったからです。吉本がキリストや親鸞に強い関心を示したのは偶然ではない。歴史的現在への問いはキリスト教的なものです。

吉本に対して正反対の立場に立って闘ったのが大岡信です。彼の処女詩集は「記憶と現

在」ですが、最初から記憶つまり歴史と「現在」は言語の問題だと直観していたのです。この吉本と大岡を両極とする図式が一九五〇年代末から八〇年代初頭まで続く。彼らが結果的に詩壇、文壇につねに地図を提供し続けたのです。地図はそれがないと先に進めないわけですから重要です。むろん正しい地図でなくていいのです。むしろ客観的に正しい地図というのはかえっておかしい。なぜなら状況つまり正しさは刻々変わるからです。これは本質的な問題で、歴史は文学である、すなわち解釈の対象であるということと同じです。現在という謎に直結しているのです。

だが、八〇年後半以降は地図がなくなってしまった。なぜか。まず、吉本、大岡に匹敵する詩人、批評家がいなくなってしまったからだ。いま読み返してみても二人は相当優秀です。朔太郎、賢治、中也が天才的であったのと同じように天才的だ。だが、それだけではない。問題の難しさが露呈してしまったからなのです。そのことは、八〇年代以降、吉本が本質論に向かい、大岡が古典論に向かってしまったことからも明らかです。現在への問い、歴史への問いが根源的だったためにそうなってしまったのです。

歴史的現在への問いは直線的な時間のうえに構想されます。それが近代の文学史の常套である。二人は、結果的にこの構想が成り立たないことを証明してしまった。文学史はまったく新しい構想のもとになされなければならないのではないか。これまで直線的な時間のうえに構想されてきたのとは違った、垂直な、いわば永遠の現在のような空間のうえに構想されるべきなのではないか。少なくとも時間的な地図、空間的な地図のその組み合わせのうちに構想されるべきなのではないか。二人が結果的に向き合ったのはそういう問題だったのですが、それがそのままのかたちで詩の現在、文学の現在に残されているのです。これは最初に述べたアインシュタインの問いと重なっていると私は思います。

これが、「今　詩は」というかたちで提起される課題の概要です。新たな朔太郎論も、中也論も、また吉本論、大岡論も、この問題に応えるかたちでしか成立しえない。いわばまったく新しい地図とともにしか成立しえない。それが詩の現在なのだと思います。

（注）本文は、講演内容に基づき、三浦氏により加筆修正されています。

講師　三浦雅士 氏

群馬詩人クラブ ホームページについて

現在左記サイトにて群馬詩人クラブのホームページを公開しております。

サイト名
http://gunmashijinclub.jimdo.com/

このサイトでは、県内を中心とする詩関連のイベント・情報等をタイムリーに紹介していきます。

つきましては、皆さんより情報をご提供いただきたくお願い申し上げます。

連絡方法は

① gunmashijinclub@yahoo.co.jp にメールにて連絡。
② 080-4919-7145（HP 担当提箸）に連絡。
③ ホームページのお問い合わせより連絡。
④ Twitter @gunmashijinclub のフォロー。
（こちらからもフォローいたします。）

のいずれかの方法でお願いします。

また、
・会員の皆さんのホームページ・ブログ
・他県の詩人クラブのホームページ・ブログ
・県内の文学館のホームページ・ブログ

等へのリンクも積極的に行っていきたいと思います。リンクのご希望等ございましたらその旨ご連絡ください。

（提箸記）

追悼

在りし日の宮崎清さんを偲んで

田口三舩

二〇一四年九月二十七日、炎樹同人・群馬詩人クラブ会員・高崎現代詩の会会員の宮崎清さんが亡くなられた。享年八十七歳。

宮崎さんは、一九二七年現在の高崎市下之城町で生まれ、その後終戦を挟んで長らく故郷を離れていたが、一九九〇年代初頭高崎市に戻った。その間の宮崎さんについてはお付き合いの機会も殆どなかったが、「赤旗」「夜明け」「民主文学」「炎樹」等を通じて幅広く活発に文学活動を展開していたことは、すでに広く知られていたところである。

私の知る限り、宮崎さんはどんなことがあっても愚痴や苦情を軽々しく口にする人ではなかった。社会の不正や矛盾に対しては、真っ向から立ち向かう正義感と強さを持ちながら、それが自身の中で醸成されるのをきちんと待てる人だったように思う。

宮崎さんの思想信条に対する確固たる姿勢は、ここでくどく申し上げるまでもないことだが、その人間味あふれる温かさと共に忘れることができない仲間に対する寛容さを示す貴重なエピソードがある。

大分前のことではあるが、群馬詩人クラブの年刊詩集で、あろうことか宮崎さんの作品が途中で切れてしまい、半分しか掲載されなかったことがある。その時の宮崎さんのひと言「係の人が努力してくれているのが分かっているだけにとても残念。でも僕の作品でよかったのかも。そう思ってるんです」

高崎現代詩の会の隔月ごとの例会にはいつも進んで出席されていたが、端的で的確なその発言内容は、聞く人の感性を揺さぶり、納得させるのに十分であった。言葉に対するこだわりはもちろんだが、作者の心情に思いを寄せた解釈にも独特の味わいがあった。宮崎さんの意見をぜひ聞いてみたいと、合評会を楽しみにしていた会員もいた。

宮崎さんの幅広い活動については、浅学にして詳細に語るだけのものを持ち合わせてはいない。しかし、高崎現代詩の会の仲間として、そしてまた人生・詩の先輩として、詩に対する真摯な姿勢と多岐にわたる体験によって培われたであろう識見、そして生きることの重さと深く温かい人間愛、または人と人との絆の大切さ等々、貴重なことをたくさん教えていただいた。明るく穏やかな表情と、小声ではあるが理路整然と意見を吐露するその話しぶりが、今私の脳裏に鮮やかによみがえってくる。

あの柔和な眼差しの奥には、あるいは私などには計り知れないもっと深いものがあったに違いないが、幽明境を異にする今となっては、残された作品を通じてしかそれを求める手立てはない。手元にある作品から、その人間性と強靭な詩魂を偲ばせていただこう。

「／カゴに乗る人　かつぐひと／そのまた草鞋をつくるひと／たしかに　ぼくはかついだ／つくりもした／カゴには／乗らなかった／」社会の不条理に立ち向かう姿勢が、その息吹きと共に伝わってくる。（「兵隊の位」）

市役所の窓口での一人の市民の抗弁と担当者とのやりとり、それを取り巻く雰囲気から、一見離ればなれの出来事を中心に、遠い昔の空襲の恐ろしさを身近なものとして、見事に描き出しているその力量は、並大抵のものではないだろう。（「市役所の窓口で」）

奇想天外な爆弾気球が、故郷で作られていたのを知ったのは、戦後しばらく経ってからだったという。当時女学生が動員で作業に加わっていた旧高崎高等女学校に立っている樟の木の瘤をそっと撫で、悲劇を歴史に埋没させまいとする思いと人間愛、そして「／しかしぼくは　いまだに敗戦の夏の寂寞を克服出来ていない／／」この最後の一行が、強烈に胸に響いてくる。（「樟の木の瘤」）

今はただご冥福をお祈りするばかりである。

訃報のご連絡

本会の会員　久保田穣さんが12月21日にお亡くなりになりました。

謹んでご冥福をお祈りいたします。

近況寸感

城田博己

この原稿を投函しようとしていた前日、12月14日に衆院選挙があった。庶民にとっては、唐突で年末に来て迷惑なことであったのか、投票率は52％台、過去最低であった。二人に一人は選挙に行かない。その結果、小選挙区では、有権者の25％の得票で75％の議席を自民党が独占するという現象が生じた。民意とは何なのか。小選挙区という制度に欠陥があるとしか思えない。

とは言っても、結果として自民党安倍政権は「特定秘密保護法」「集団的自衛権法」「共謀罪法」、そして、選挙後公言して憚らない改憲への道を一気に推し進めようとしている。戦後70年間、現憲法下で辛うじて守られてきた平和が脅かされようとしてしている。今後どういう事態になるのか、投票した人も、しなかった人も等しくその影響を受けることは間違いない。

すべての人が影響を受けると言えば、地球上のあらゆる生きものが影響を受ける大問題に「地球温暖化」がある。昨今世界中を覆っている異常気象、大雨・大雪・旱魃、農作物や生態系への被害、このまま行けば地上の生物、勿論人類の生存さえ危ぶまれている。

日本に於ても、阪神・淡路の大震災、東日本大地震と大津波、東京電力福島原発の事故、広島での土石流災害、相次ぐ火山の爆発、局地的な集中豪雨、豪雪、一見自然現象にも見えるが、果たしてそれだけだろうか。

「憲法」問題にしろ、「地球温暖化」にしろ、ここ数年の私たちの暮らし方に関わってくることである。また、将来最もその被害を受けるのは、子や孫の世代である。

私たちは今、小さな地域ではあるが、志ある人々と環境問題を考える集りを25年間続けている。さらに、子どもたちとの活動の場もつくり20年になる。大人と子どもが一緒に、「地球温暖化防止」について学習したり、春は地域の自然にふれるハイキング、夏は近場の山でキャンプ、秋は地域の川の調査、冬は雪山スキーやトレッキング、その他地域行事やレク活動などに取り組んでいる。土・日はほとんど地域で子どもたちと過している。忙しいやら、楽しいやら、一寸した野外教室である。

子どもたちとの活動の中で、食生活と健康のことが心配になって〝農業は、地球と子どもを救う〟をテーマに、食育・食農についても取り組むようになった。学校近くの休耕畑を借り受け、草を取り、土を耕し、堆肥を入れ、子どもたちと無農薬での野菜づくりを始めた。15年間耕し、今では立派なエコ農園、四季折々20種類以上の旬の野菜を収穫している。農業は、喜びも大きいが苦労も多い。この国では、詩作同様、農業も報われない。

しかし、日々育つ作物と集まってくる子どもたちの成長を見ていると、私たちの平凡で不安に満ちた日常に、優しい光が当てられ、老いていく日々の救いでもある。超少子高齢化が進行する中で、子どもたちを大切に育て、その健康と平和を守っていきたい。

曲がりなりにも詩を書き始めて60年近く、詩誌『夜明け』の創刊や諸詩団体に関わって50年、「田を作るより、詩をつくれ」の生活から、今や「詩もつくり、田も作れ」の日々が目の前にある。

（2014・12・15）

収穫

城田博己

草を抜く
土をどかす
両手をつっこんで
思いっきりつかんでみる
ちっちゃな掌に
黄色い宝石のような
泥つきのジャガイモが
いっぱい

子どもたちの農園で
二月の風に身を屈め
北海道産の種芋を半分に切って
灰にまぶして植付けたジャガイモ
暑くなった陽射しの中
子どもたちの汗が弾ける
笑顔の明日が続くように
輝っている

第五十二回　群馬県文学賞（詩部門）（受賞作5編より）

庭

泉　麻里

誰もいない
泣いているのは
ちいさな
今日の
わたし

導かれるまま
庭に立つと
もう
触れることも
問いかけることも
叶わなくなったひとたちが
そこここに

とねりこ
はなみずき
やまぼうし

だれも
なにも
かたらない

空を仰ぎ
降りしきるものを浴び
赦されたくて

過不足なく
調えられた
一輪
一葉
その葉陰

誰もいない
その庭に
ひとり

泉　麻里　略歴

水上町生まれ
一九八七年　第一〇回　島田利夫賞佳作
一九八九年　詩集「そのとき　わたしが」（紙鳶社）
一九八九年　第二五回　上毛文学賞
詩誌「サマルカンド」「ラティメリア」
コミュニティマガシン「い」会員を経て
現在　詩誌「榛名団」所属
季刊詩誌「詩的現代（第二次）」会員
群馬詩人クラブ会員

イベント報告

第二十二回現代詩作品展

平成26年10月5日(日)――19日(日)
前橋文学館オープンギャラリー

高田芙美

初日の五日の日は、当番ではないのですが受付のような感じで会場に行くつもりでしたが、天候が悪くて行けませんでした。結局私は最後まで一度も作品展の留守番ができませんでしたが・・・

何度か足を運んでいれば、観覧者の方のお話し等聞けたのだと思います。

今回はテーマを決めませんでしたが、テーマを決めた方が良い、という意見もあります。次回は検討できれば良いと思っています。前橋文学館の三階のオープンギャラリーは広すぎず狭すぎず良い空間だと思います。前橋文学館の方々、作品を出して下さった会員の方と見に来て下さった方々にお礼を申し上げたいと思います。

出品して下さった方々

新井　啓子「音玉」
新井　隆人「復習」
いずみまり＆Saketaro「3　9　11」
井上　英明「記憶する意味を問う」
「しがらみは」
内田　範子「群馬の馬たち」「花びら」
金井裕美子「事情」
狩野　務「トムとポチ」「瞳の宇宙2」
柄澤　絢子「迷い込んだ場所」「霧」
木村　和夫「赤城山」
剣持　昭義「宙根樹（そらねのき）」
「豊岡の現代カルタ」
佐伯　圭「紙の変容」
三枝　治「雪」
佐鳥　吉美「クルマの里の物語」
志村喜代子「空フィルム」
須田　芳枝「ファンタジー」
「薔薇（ばら）じゃなくとも」
関根由美子「おもい、といてる」
「淡雪のふる日」
高田　芙美「どうぞ私をさがさないで下さい」
堤　美代「胡瓜（きゅうり）の馬」
富沢　智「キューピー番外号　難破船」
中澤　睦士「帰水の橋」
中野　和彦「タンポポ」
平野　秀哉「木守柿」
福田　誠「青の空間（漂いだす）」他
松本　茂晴「世界遺産　Ⅰ・Ⅱ」

来場して下さった方々のご意見、ご感想をご紹介いたします。

- 毎回個性的な作品がたくさんあり楽しく拝見しています。
- 約20年振り位に仲間の作品に会い懐かしさを感じています。
- ほのぼのとしてよかったです。

インフォメーション

高崎現代詩の会主催

～第8回 詩の朗読会のご案内～

浅き春に詩を味わう

日時　二月二十二日（日）午後二時～四時
場所　Cafe あすなろ
〒370-0827
高崎市鞘町七三番地
☎027-384-2386
会費　無料
（但し、お一人様一品以上のオーダーを）
お問い合わせ
高崎現代詩の会　副会長 福田誠まで
〒379-0116
安中市安中三-一七-七
☎&FAX 027-382-2329
携帯電話 090-2169-3594

＊読むのは、自作詩でもそれ以外でもかまいません。もちろん聴くだけでもOKです。
＊会員以外の参加、大歓迎！
＊事前の申し込みは不要です。お気軽にご参加ください。お待ちしています。
＊BGMの必要な方は、CD等ご用意ください。

年会費納入のお願い

群馬詩人クラブの会費は年間三〇〇〇円です。払込の口座番号は左記です。

00140-8-72896 9　狩野　務

平成二十七年度までの会費をお支払いでない方は、同封の払込書用紙にて払込をお願いします。

受贈詩誌御礼

＊御恵贈感謝いたします。

宇宙　宇宙の会
日本現代詩人会報136　日本現代詩人会
花野31　大手拓次研究会
とっとり詩集第六集　鳥取県現代詩人協会
中四国詩集2014　中四国詩人会
中日詩人集54　中日詩人会事務局
静岡県詩人123
岩手県詩人クラブ会報87
第67回岩手芸術祭「文芸祭」入賞作品集
千葉県詩人クラブ会報225　227
いしかわ詩人38
栃木県現代詩人会会報68
福岡県詩人会会報160
大分県詩人協会会報141
詩と童話　タラの木22　タラの木文学会
第29回国民文化祭　あきた2014
現代詩フェスティバル
北東北子どもの詩大賞　精華集
裸心版2014・11・13　こまつかん
いしかわ詩人九集　石川詩人会
宮城の現代詩2014　宮城県詩人会
宮城県詩人会10年史
二〇一四年刊詩集　徳島現代詩協会
長野県詩集2014年版　長野県詩人協会
けやき48　福田尚美
SCRAMBLE133　高崎現代詩の会
香川県詩集第18集2014年度版
茨城県詩人協会報19
岡山県詩人協会だより14
とっとり詩人31　鳥取県現代詩人協会
千葉県詩集第47集　千葉県詩人クラブ
季刊詩誌詩的現代11　詩的現代の会
燎4　志村喜代子
SUKANPO17　田口三船
兵庫県現代詩協会会報36
兵庫県現代詩協会会報特別号
「阪神・淡路大震災から20年を想う」
兵庫県現代詩協会
（十二月二十三日現在　敬称略）

編集後記

今号では、別冊として、会員名簿を用意させていただきました。

誤りのないよう注意しておりますが、住所氏名等ご確認いただき、誤り等ございましたら幹事までご連絡ください。

また、ホームページへの情報の提供のお願いもさせていただいております。ホームページがどのぐらいアクセスされているかというと、昨年十一月二十六日にカウンタを設置させていただき、本日（一月十二日）現在、四百十四回アクセスが行われています。一日当たり十人弱のアクセスが行われていると思われます。より多くの情報をご提供いただき、会員の皆さんが積極的にご利用いただける、ひいては、若い書き手への呼び水となればと考えています。ぜひとも、ご協力のほどよろしくお願いいたします。

（提箸　宏）